

チャレンジいばらき



特集

いばらきチャレンジアワード「支え合い2023」 「茨城県知事賞」受賞団体の活動紹介

- ▶ いばらきチャレンジアワード「支え合い2023」 ▶ 私のボランティア talk & matching 事業
- ▶ 茨城県企業連携型NPO活動支援事業 ▶ 団体会員を訪ねて ▶ 花いっぱい運動定着化促進事業
- ▶ 県民運動を地域で支える地域活動員(ネットワーク)の活動紹介
- ▶ 寺子屋サルーン ▶ あいさつ・声かけ運動



いばらきチャレンジアワード「支え合い 2023」

ファイナリスト プレゼンテーション・表彰式

令和5年11月23日(木・祝)
ホテルレイクビュー水戸 ※オンライン同時配信

地域の困りごとの解決など、社会の新しい力になってみたいと考えている方々に対し、社会貢献のための独自性の高い活動プランのプレゼン機会を提供する「いばらきチャレンジアワード」。福祉や環境問題、障害者支援など様々な分野に関わる優れたプランを表彰することにより、社会活動に向けてのチャレンジ精神を醸成し、非営利の社会貢献活動を促進することで、地域社会の持続可能な発展に寄与することを目的としています。

35件の応募の中から一次審査を通過し、10分間という制限時間の中で、社会課題の解決を目的とした活動プランの公開プレゼンテーションに臨んだ7組のファイナリスト。熱意あふれる発表に対して、聴衆からは惜しみない拍手が贈られました。審査員からは、「ビジネス的にどういった展望を描いているのか」という質問や「楽しい課題解決の提案で今後に期待している」といった激励の言葉がありました。

栄えある茨城県知事賞(賞金100万円)に輝いたのは「特定非営利活動法人ソワンアンドソワレ」です。近年、社会的課題として顕在化しているケアラー・ヤングケアラーの問題に対して自身の体験を基にいち早く取り組み、相談窓口の開設や居場所づくりなどの実績に加えて、茨城県内の支援団体のネットワーク化への新たな試みが評価されました。

表彰式に続いて登壇した大井川知事は「現代社会は複雑・多様化しており、行政や企業だけでは解決が難しい社会問題が存在している。県内で活動している団体に刺激され、皆が共助の活動に携わっていける社会にすることが、人口減少社会を考える上で大きなヒントになると考えている。県としても、社会貢献活動の活性化に力を入れていく」と挨拶されました。

特集

いばらきチャレンジアワード「支え合い2023」

茨城県知事賞 受賞



公式ホームページ

特定非営利活動法人ソワンアンドソワレ Soin&Soire

ケアラー・ヤングケアラーが生きがいをもって暮らせる茨城を実現したい！ みんなで料理を囲む居場所づくりとネットワーク構築事業

自分の時間を介護や家族のケアに費やしているケアラー・ヤングケアラーは日本中に大勢います。毎日続くケア生活で、遊べない、将来が不安、社会的に孤立してしまう。そう悩む方々には、自由な時間・睡眠の確保、学習サポートといった支援が必要です。2022年に開設した相談窓口では、延べ244名の方が苦しい胸中を吐き出していかれました。自死を考えるほど思い詰めていた方でも、話をすると心が楽になり前向きな心境に変わります。気持ちが安らぐ居場所になればと2022年10月からは料理のワークショップもスタートしました。しかし、県内で支援活動をしているのはまだ当団体のみです。そこで今後は、県内全域でケアラーに寄り添えるよう支援団体のネットワークを構築していきます。また、ケアラー・ヤングケアラーを受け入れできる常設の居場所づくりにチャレンジします。ケアラー生活は誰にでも訪れる可能性があります。



理事長 中島 沙都美さん

特定非営利活動法人 ソワンアンドソワレ

※ケアラー 心や体に不調がある家族や近親者のケアを日常的に無償で行っている人を指す。18歳未満の子どもの場合はヤングケアラーと呼ばれる。

2020年6月法人設立。障害や病気、介護などの困難を抱える方に、情報提供や地域の特性を活かした就労機会の支援事業および子育てに関する事業を行う。現在13名の正会員のほか、30名ほどのボランティアが活動に参加。ほとんどの方がケアラー経験者。

ソワンアンドソワレ(寄り添う者と寄り添われる者)共に手を取り合い、誰もが仕事や楽しみなど生きがいをもって暮らせる社会を



★県知事賞を受賞された感想をお聞かせください

ケアラーに対する支援は動き出したばかりです。受賞によってメディアに取り上げられる機会が増えれば、もっと多くの方に現状や活動を周知できます。活動の原点は「課題に気づいた自分たちがやらなくては」という思いです。審査員の方から、「いち早く取り組んでいる」と評価いただき感極まりました。とても意義ある受賞となりました。

★団体設立のきっかけは何だったのでしょうか

長女が出産時の事故で重度の障害を負い、それから10年、看護のため外出すら叶わないケアラーとしての日々が始まりました。どんどん閉塞感に苛まれ、時に長女を責め我に返って自己嫌悪に陥る。苦しい気持ちを吐き出せる機会があれば楽になれたでしょうが、当時は支援も情報もありませんでした。転機は2019年、子どもと一緒に外出したい気持ちから始めた情報誌の発行です。「自分が受けられなかった支援をみんな必要としているのではないか」、「悩んでいるだけでなく動き出さないと」。反響の中からそう感じるようになり本格的な活動が始まりました。

★どんな活動をされていますか

週1回の相談窓口活動のほか、月に1回「ケアラーズキッチン」を開催しています。手芸やパソコンなど色々試してみた結果、料理ならみんなが笑顔になれて打ち解けやすいとの手ごたえを感じて、始めました。料理の合間に、ケアラーの方のお話を聞くこともあります。12月にはサンタの訪問イベントとして、企業の協賛や個人から寄付いただいたプレゼントを持って牛久市内の家庭や施設を回っています。

★活動で気をつけていることはありますか

訪ねてきてくれたケアラーの方が抱えている悩みを傾聴して背景を知ることです。私は10年間、気持ちを吐き出す場がなくなため込んでいました。その経験があるので、何よりも話してもらって受け止めてあげる、それを大切にしています。

★これからの展望について教えてください

茨城県で全世代のケアラーを支援しているのはまだ当団体だけなので、遠方にいるケアラーの方にとっては距離が最大のネックです。そこで、ケアラー支援について同じ理念を持つ県内各所の事業所や高齢者施設、デイサービス職員さんなどのネットワークを構築します。情報を共有しながら熱意と実績のある人たちに各々の地域で活動してもらおう。そうすれば、どこにいても安心してケアラー支援が受けられると考えています。また、いつ来ても誰かがいて話を聞いてもらえる居場所「ケアラーズカフェ」を作ることも大きな目標です。

いばらきチャレンジアワード「支え合い2023」 ファイナルプレゼンテーション

- ①活動概要
- ②プレゼン内容
- ③今後の目標

チャレンジいばらき県民運動理事長賞

AGRI BATON PROJECT

農業女子発♪ 農業を子どもたちの あこがれの職業にしよう!

～誰にでも取り組める食農教育活動オンラインコミュニティ～

①農業の魅力を伝える絵本を制作・出版し、誰にでも取り組める食農教育をオンラインコミュニティで展開。

②高齢化や農業に就きたい子どもゼロという現実に危機感を持ち立ち上がった農業女子3人。食と農業の魅力を絵本で読み聞かせする

アイデアが評価され全国に広まる。重要なのは食農教育を農家自らが行うこと。企業協賛や農業体験ツアー、食育企画など引き合いが増えている。

③絵本を通して農業が子どもたちにとってあこがれの職業となり、みんなが食料を安心して食べられる未来を作りたい。



代表 横田 祥さん

奨励賞

世界はサカサマ

片麻痺障害者向けの 服のお直しサービス

①病気の後遺症で片麻痺が残る方を対象に、市販の服を片手でも着やすくお直しするサービス。

②障害者自身が着たい服に着替えができることは自立支援になる。片手で脱ぎ着できるブラジャーは、女性の悩みを解決したい思いで開発。SNSを通じ当事者や作業療法

士などからの意見も反映させている。今後、モニター50人に提供しその声を改良に生かす。

③目指すのは片麻痺当事者が好きな服を自由に着られる世界。また、障害のない人にも喜ばれる商品を開発していく。



坂 亜紀子さん

奨励賞

もりサポ塾

事情があり塾に通えない 市内中学生への学習サポート塾事業

①様々な事情を抱える子どもたちに寄り添い、学習の機会を提供。

②貧困により多くの母子家庭には教育格差が生じている。その解決のため学びの場を提供。勉強ができることは自己肯定感の向上につながる。大学生ボランティアの参加、子ども食堂による弁当配付、

個人塾との情報共有といったマンパワーと地域の連携は、子どもが社会を信頼する素地を育む。

③子どものサポートは未来への投資。地域に支えられた彼らがやがて社会を支える大人になれるよう活動を続けたい。



代表 川崎 文さん

会員企業特別賞(日東電気株式会社賞)

フレンズサポーター

世界をまるっと受け入れ隊 in 筑西市

①外国にルーツを持つ子どもたちの就学支援や小学校への出張日本語教室を実施。

②筑西市内の小中学校に通う外国人はおよそ190名。安心して暮らせるよう日本語勉強会を開く一方で、日本人の子どもが外国語に触れる機会の提供も試みている。

外国籍の子どもがフルタイムで働けるビザの取得には高校卒業が必須であり、他団体のサポートも得ながら就学支援に注力している。

③在日外国人の増加は、日本にいながら国際交流ができるチャンス増加と考えている。筑西市から世界へ羽ばたける人材・ビジネスを生み出したい。



代表 山本 桂子さん

会員企業特別賞 (茨城トヨペット株式会社賞)

特定非営利活動法人 SEA.ing

茨城から変える海洋ごみ問題

～新しいビーチクリーンの形で広げる環境意識の輪～

- ①海岸の清掃活動や環境講演を通じて海洋環境問題に取り組む。
- ②現在の活動は海岸での定期清掃、マイバッグ持参の呼びかけなど。今後、清掃活動に食事や地域レジャーといった遊び要素を加えて参加を促していく。海に来ないと活動できないという課題にはビーチファンディングを提唱。必要備品や関連グッズの購入で間接的に協力できる体制を整える。
- ③楽しみながらの海岸清掃とビーチファンディングの組み合わせで継続性のある活動ができる。茨城県から海洋ゴミの問題を解決していきたい。



理事長 大橋 康平さん

会員企業特別賞 (水戸ヤクルト販売株式会社賞)

特定非営利活動法人 kosodate はぐはぐ

民間による伴走型相談 支援の拡充プラン

(多文化交流を視野に入れて)

- ①家庭訪問型子育て支援ホームスタートを通して、出産後の育児で悩む母親を地域でサポート。
- ②地域住民が自らの子育て経験を生かしボランティアとして参加。寄り添い傾聴する中で互いが笑顔になれる。拠点とするつくば市は在日外国人人数が県内1位。文化や言葉の壁で孤立しがちな外国人の子育て支援も必要と感じ今夏から活動している。
- ③子育ての方法や価値観の異なる外国人への支援は多文化交流にもなる。優しい気持ちのやり取りをつくばから県内へ広げたい。



代表理事 前島 朋子さん

私のボランティア talk & matching 事業

茨城県内で地域活動に取り組んでいる方や関心のある方を対象に、県内での各活動団体・活動者同士のネットワークづくりの機会として開催しています。複数のテーマでの活動発表・交流イベントを通じ社会活動の仲間づくりを応援します!

第2回 コミュニティ・教育支援

令和5年10月11日(水)

多岐に渡る本橋さんの活動の中で特に思い入れが強いと語るのが通学支援です。経済的理由などで希望する学校へ行けない子どもに返金不要の奨学金を支給しています。この活動では、子どもたちだけでなく保護者(大人)に対する支援の必要性も痛感したということです。



Big smile project
本橋 綾子さん

茨城から次世代リーダーを輩出すべく、中1生から大学院生を対象に半年のプログラムを実施する菅原さん。本当に何をしたいのか、自己を見つめ成長する機会としています。活動の継続には地域の声を聞き議論した上でコミュニティを形成し、本当に欲しいと思われたものを最終的にビジネス化する脱ボランティアの考えが必要と語りました。



常陸 frogs
菅原 広豊さん

尾崎さんは、中高生が茨城県の一次産業関係者やつくばの科学と触れ合う「旅」を通して、地元や地域の人と関わる機会を創出しています。首都圏の学校も呼び込めれば経済的効果も期待できることから、協力者を有償で募り、コロナ禍で一変した観光業に新しい可能性を見出したいとしています。



森と未来の学校
尾崎 精彦さん

第3回 子ども・地域づくり

令和5年12月6日(水)

子どもを社会から孤立させない、そしてボランティア希望の学生に活動の場をつくる。この理念の下で活動する植竹さんは、オンラインによる不登校支援を行い社会課題の解決に努めています。コロナ禍では、学習だけでなく話し相手としての大切な役割を果たしました。良いボランティアで終わらせたくないとの考えから、保護者や識者との情報交換会や大学との共同研究などにも積極的に取り組み、幅広い活動を通して日本中の子どもを支援していきたいと意気込みます。



For Everyone Study
植竹 智央さん

遊び体験から生まれるコミュニケーション、それがアソビニケーションです。

遊びを事業とする増田さん主宰のまちのこ団は、移動式遊び場プレイバスで県内外のあちこちに居場所と遊びの機会を提供しています。大子町やひたちなか市に拠点を構え、まちなかの居場所として防災イベントや遊び方教室なども開催。多くのボランティアに支えられながら、大切なまちの子どもを育む活動をしていますと語りました。



一般社団法人まちのこ団
増田 大和さん

茨城県企業連携型NPO活動支援事業

《令和5年度の助成事業》

茨城県では、地域貢献活動を行うNPOに対して、県と企業が協調して助成（寄付）を行う「茨城県企業連携型NPO活動支援事業」を実施しています。

令和5年度もチャレンジいばらき県民運動の会員企業をはじめ、多くの企業の皆様のご協力をいただき、環境保護や青少年育成、まちづくりなど様々な分野の活動（38事業）に対して支援を行いました。

人口減少社会を迎え、価値観やニーズが多様化する中、様々な地域課題に対応するためには、行政だけではなく多様な主体が支え合う共助の取組がますます重要となります。茨城県では、これからも企業とNPOとの連携の促進など様々な取組により、共助社会の推進を図ってまいります。

事業名称（寄付協力企業）	分野	NPO名称（主な活動地域）
茨城トヨタ自動車NPO活動支援事業 （茨城トヨタ自動車株式会社）	環境	NPO法人 水辺基盤協会
	教育	NPO法人 水戸こどもの劇場
	青少年・子ども	NPO法人 地球の保健室
	医療・福祉	NPO法人 いろいろ
	防災・安全	NPO法人 茨城県防災士会
茨城トヨペットNPO活動支援事業 （茨城トヨペット株式会社）	環境	NPO法人 真砂山FUNクラブ
	教育	NPO法人 ジョインアス
	青少年・子ども	森のこども食堂 ももっちの会
	防災・安全	NPO法人 わくわくネット65
	まちづくり	NPO法人 日本スポーツアカデミー
すずめいNPO活動支援事業 （鈴縫工業株式会社）	青少年・子ども	NPO法人 ひたち親子の広場
		NPO法人 ファーストペンギンネットワーク
		東西フードパントリー
		NPO法人 マナーズ
		NPO法人 NGO未来の子どもネットワーク
セキショウふれあい基金NPO活動支援事業 （関彰商事株式会社）	環境	里美の水プロジェクト
	教育	AGRI BATON PROJECT
	青少年・子ども	子ども食堂みんなの実家モグモグキッチン
	医療・福祉	NPO法人 ソワンアンドソワレ
	防災・安全	NPO法人 かけはしねっと
AYA'S LABORATORY NPO活動支援事業 （中山商事株式会社）	まちづくり	大煙突とさくら100年プロジェクト
日東電気グループNPO活動支援事業 （日東電気株式会社）	環境	森っこ
		逆川こどもエコクラブ
	防災・安全	NPO法人 エコ・グリーンいばらき
		NPO法人 いばらき救命教育・AEDプロジェクト
まちづくり	笠間で暮らそう会	
J X金属NPO活動支援事業 （J X金属株式会社）	まちづくり	NPO法人 共楽館を考える集い
ザ・ヒロサワ・シティNPO活動支援事業 （株式会社広沢本社）	青少年・子ども	NPO法人 筑西ファミリーサポートセンターまなま
地創研NPO活動支援事業 （一般社団法人地方創生戦略研究所）	まちづくり	医療・福祉
		NPO法人 きなり
茨城交通株式会社NPO活動支援事業 （茨城交通株式会社）	まちづくり	ジオネット日立
しびくばわーNPO活動支援事業 （株式会社しびくばわー）	青少年・子ども	NPO法人 子ども食堂れん
ダイヤモンド筑波NPO活動支援事業 （株式会社セイワ食品）	まちづくり	NPO法人 まちの研究室
水戸ヤクルトNPO活動支援事業 （水戸ヤクルト販売株式会社）	まちづくり	NPO法人 梨想の会
モリケンセツNPO活動支援事業 （森建設株式会社）	医療・福祉	NPO法人 ちいきの学校
茨城県企業連携型 NPO活動支援事業（匿名）	環境	砂沼環境連絡協議会
	環境	NPO法人 エコレン NPO法人 SEAing 鹿島灘継美隊



セキショウふれあい基金 NPO 活動支援事業
×里美の水プロジェクト

団体会員を訪ねて Vol.7

株式会社 セイワ食品 茨城県筑西市舟生44-5

事業内容 食品製造業



ダイヤモンド筑波前拳式



代表取締役 長津 正則さん

テーマパークのお土産やコンビニ限定食べ切りパックのお菓子をはじめとしたチョコレートやスナック菓子を製造している同社は、ボール型や板型、ドライフルーツ入りなど多様な製品を取り扱い、現在では海外工場での生産やベトナムのカカオ自社農園で栽培したカカオを使用した新ブランドも立ち上げました。長津社長は、社員同士のつながりを大切にするため職場環境の向上や、クラブ活動・社員旅行といった福利厚生を充実させています。茨城県企業連携型NPO活動支援事業として、地元団体・NPO法人梨想の会によるダイヤモンド筑波を活用したまちおこし事業の応援を始めたことも、青年会議所時代の先輩とのつながりによるもの。これまで3年間、拳式イベントなどを後援してきました。「工場が操業して生活圏でもある地元を盛り上げないのはもったいない。」と長津社長。人集めや設営が大変としつつも、地域貢献活動に対する意欲を語ってくれました。

令和
5年度

花いっぱい運動定着化促進事業

認定証交付式



令和5年12月14日(木) ザ・ヒロサワシティ会館 分館

(公財)げんでんふれあい茨城財団との共催により、花づくりをととした地域コミュニティの再生・活性化を図ることを目的に各種団体・学校に対して、花壇づくりの支援を行っています。

はじめに、認定された団体および学校にチャレンジいばらき県民運動阿部理事長と(公財)げんでんふれあい茨城財団 近畑事務局長から認定証の交付と目録などの贈呈がありました。続いて、花壇づくりに関する講演として、(株)砂押園芸の砂押一成代表取締役から、「花壇は見栄えや花の種類に目が行くが、綺麗に咲いているのには理由がある。認定された皆さまには、(地道な作業)土づくりを意識し他の方に発信できるくらいにこだわって、今後の花壇づくりに取り組んでほしい。」と励ましの言葉がありました。また、(株)海野ガーデンの海野紀子代表取締役から、「みはらしの丘が青く染まるまで～ネモフィラ編～」と題して、国営ひたち海浜公園のみはらしの丘の土づくりのポイントや種まきの難しさなど、通年管理に携わっている経験から得られたお話がありました。櫻井茂幸審査委員長は講評で、「39の団体・学校から応募があり、審査の結果、認定されたどの団体・学校も、多くの人々が花壇づくりに取り組んでおられ、今後の発展を大いに期待出来る。」と述べられました。認定された団体・学校のみなさまのこれからの取り組みを応援しています。

市町村	団体・学校名
日立市	宮田学区コミュニティ推進部 生活環境部
土浦市	神立コミュニティーセンター
土浦市	土浦地区交通安全西部母の会
龍ヶ崎市	龍ヶ崎市 松葉コミュニティーセンター 活動推進協議会
牛久市	栄町行政区
常陸大宮市	三美公民館
那珂市	額田城跡保存会
行方市	レイクエコーボランティアの会
東海村	白方地区自治会 建設・環境部会
東海村	青少年育成東海村民会議 石神支部
阿見町	せかはる
八千代町	栗山シニアクラブ
八千代町	道前六保行政区有志
利根町	とね楽のう会
水戸市	茨城県立盲学校
土浦市	社会福祉法人めぐみ愛育会 新生めぐみ保育園
常陸太田市	常陸太田市立峰山小学校
北茨城市	北茨城市立平湯小学校
笠間市	大成学園いなだこども園
笠間市	笠間市立みなみ学園義務教育学校
筑西市	茨城県立下館工業高等学校 インターアクトクラブ
つくばみらい市	つくばみらい市立小絹中学校
茨城町	茨城町立青葉小学校

県民運動を地域で支える地域活動員 ネットワーク の活動紹介

坂東市ネットワーク連絡協議会

今年で設立20年目の当会では、会員20名(男性7名、女性13名)が活動しています。

主な活動は、市が主催する敬老会の手伝い、チャレンジいばらき県民運動の啓発運動、募金活動などです。以前は同市内にあるミュージアムパーク茨城県自然博物館の野外施設の清掃活動も行っておりましたが、コロナ禍の影響で残念ながら活動は休止となっております。当会が協力している募金活動は、赤い羽根共同募金とひまわり募金活動です。ひまわり募金は、ウクライナ避難民支援ネットワークが実施している4市(坂東市、常総市、守谷市、つくばみらい市)連携ウクライナ避難民受入れ支援のための募金で、4市に避難を予定している方、または避難しているウクライナ避難民の方の支援に活用されており、昨年度から当会も微力ながら協力しております。



代表 飯住 澄夫

チャレンジいばらき県民運動

ネットワーク募集中!

地域活動員(ネットワーク)は、居住する地域において、地域の人たちのネットワークづくりや住み良い地域づくりに取り組んでおり、現在、約700名の方々が県内各地で活躍しています。皆さんも、一緒に活動しませんか?

詳しくは、お住まいの市町村へお問い合わせください。

寺子屋

NPO・地域活動者向け交流・学び合いの場

サルーンを開催しました

第34回 令和5年10月27日(金) 小美玉市小川文化センターアピオス

第35回 令和5年12月7日(木) 鹿嶋市立中央公民館



地域活動に活かすLINE講座～LINEグループを活用しよう～

大学生と不登校児童生徒をオンラインでつなぐ学習支援を行っているFor Everyone Studyの植竹智央さんを講師に招いて、小美玉市と鹿嶋市で開催し、合わせて34名が参加しました。

今年度は、IT活用グループの県民活動推進員がサポートに加わることで、参加者のレベルに合わせてじっくり学んでいただくことが出来ました。はじめに、友達追加や写真送信などの基本的な操作方法を確認し、次に、地域活動を行ううえで便利な日程調整機能、仲間との写真共有に便利なアルバム機能、送信者のメッセージに直接リアクションをつけることが出来るリアクションスタンプ機能などを学びました。参加者同士がサポートし合うことで、新たな交流やつながりが生まれ、楽しく和やかな講座となりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

あいさつ・声かけ運動を実施しました

「あいさつ・声かけ運動」街頭キャンペーンは、広く県民に「あいさつ・声かけ運動」を周知し、県民自ら「あいさつ・声かけ」を実践するよう呼びかけることを目的に実施しています。

11月の「あいさつ・声かけ運動」「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」強化月間に合わせて、(公社)茨城県青少年育成協会、青少年育成市町村民会議、チャレンジいばらき県民運動の3団体が主催し、日立駅、土浦駅、下館駅のほか複数の駅と水戸市内のスポーツ施設であいさつ・声かけ運動を実施しました。チャレンジいばらき県民運動からは、大好きひたちネットワーク、土浦市ネットワーク等連絡協議会、筑西市ネットワーク協議会の各ネットワークや県民活動推進員などが参加し、早朝から駅の利用者にあいさつをしました。また、ひたちなか市ネットワーク連絡協議会は、自主事業として那珂湊駅であいさつ声かけ運動を実施しました。



地域課題解決のための新たな取組を支援します！ 令和6年度「茨城県提案型共助社会づくり支援事業」

茨城県では、行政だけでは対応が難しい地域課題の解決に向けて、NPOや企業等が新たに取り組む社会貢献事業への助成を行っています。随時相談を受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

令和6年度事業募集期間：令和6年4月1日～5月31日

お問い合わせ

茨城県女性活躍・県民協働課
Tel.029-301-2175



編集後記



先日、いばらきチャレンジアワード「支え合い2023」ファイナルプレゼンテーションに参加しました。各分野で活動している方々の取り組みや意見を拝聴し、心から感動しました。お一人おひとりが描いた夢に向かって、更に前進することを願って止みません。しかしながら、日本を取り巻く情勢は混沌としています。ウクライナの問題だけでも心が痛みますが、イスラエル、ガザ地区の映像では、多くの市民が悲痛な表情を浮かべています。その地区の子ども達は大丈夫か心配でなりません。国連が掲げたSDGsは遠のくばかり。それでも前を向いて強く進んで行きましょう。(県民活動推進員 高橋)

いばらきチャレンジアワード「支え合い2023」で受賞をされたみなさま、おめでとうございます。今後も多岐にわたる地域課題の解決に向け、ふるさと茨城のためにお力添えをお願いいたします。さて、先日筑波山で紅葉を観てきました。この巻が発行される頃には山もすっかり景色を変えていることでしょう。紅葉の次は何？と「チャレンジいばらき県民運動」のホームページを検索したところ、私の住む県北地域では「御前山ダムの里・立野神社」「高萩八幡宮と爺杉」等々、訪れたことのない風景が多く紹介されていました。家のそばでも、桜の花びらの舞う中ではしゃぐ子どもたちの声、地域のお祭りで上がる花火、道路脇の色づいたプラタナスの葉、たまに降る雪に埋もれた街の静寂。季節ごとに目や耳を楽しませてくれる風景がたくさん思い浮かびます。目新しくはないけれど、ふるさとっていいな、としみじみ思います。年をとったせいなのかなあ。(県民活動推進員 中野)

チャレンジいばらき県民運動 広報紙

(発行) チャレンジいばらき県民運動 令和6年3月1日発行
(編集) 県民活動推進員(魅力発見・発信グループ)

お問い合わせ



チャレンジいばらき県民運動

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎2階
Tel.029-224-8120 Fax.029-233-0030
ホームページ ▶ <https://challenge-ibaraki.jp> E-mail ▶ info@challenge-ibaraki.jp

